

精神症状

自我意識障害

自我意識

- 自己自身に対する意識
- 主体的な【自我】が【自己】を客体として意識する

ヤスパースによる4つの標識

能動性の意識：「自分がやっている」。自分が感じ、考え、行動している。
 単一性の意識：自分が「一人である」。単一のまとまった存在である。
 同一性の意識：過去から現在まで、自分が同一の人間である。
 限界性の意識：自分が、他者・外界と区別されている。

離人体験（離人症）

【疎隔】本来自分の側にあったものが失われ、実感がなくなる。よそよそしい感じ。

- 自分の感情・行動・体、外界の存在が、疎隔されていると感じ、実感が乏しくなる。

自己意識離人症

- 自分についての感じ方が変化
- 考えている、行動しているという実感が乏しい
- 自分の存在を実感できない。
- 昔の自分が、現在と違うと感じる

身体意識離人症

- 体の全部・一部（手足など）が自分のものと感じられない
- 感覚が鈍い
- 暑さ寒さ・痛みがわからない

外界意識離人症（現実感消失）

- 外界についての感じ方の変化
- 周囲のものが生き生きと感じられない
「自分と周囲の間にベールがかかっている」
- 物の存在を実感できない
「写真を見ているよう」
- 命あるものを生きていると実感できない

自生思考

考えがひとりで浮かんでくる→考えが聞こえる→幻聴に発展
他人の考えに感じる→他人にさせられている→作為思考に発展

- 自然に考えが浮かぶ。自分で考えている、という感じがしない。

作為体験（させられ体験・被影響体験）

- 自分の思考・感情・行動が、「させられている」と感じる病的体験。

能動性の意識の消失 + 外から操られるという意識（被影響感）

作為思考 ●自分で考えようとしても、考えさせられてしまう。

考想（思考）吹入：他人の考えを吹き込まれる。
 考想（思考）奪取：他人に考えを抜き取られる。
 思考干渉：自分の考えにいちいち干渉される。

作為思考と似た自我意識障害症状～被影響感なし
 考想（思考）伝播：考えが周囲に伝わる。
 考想察知：考えが他人に知られる。見抜かれる。

作為感情 ●感情を操られる。腹立たしくさせられる。愉快的気分させられる。

作為行為 ●行為をさせられる。ex) 歩きたくないのに歩かされる。

身体的影響体験 ●外部から「される」という体験様式で身体的異常を知覚。

ex) 性的に興奮させられる。頭の中を棒でかき回される。体をビリビリとさせられる。

- 幻覚（体感幻覚・幻触）・妄想と区別しにくい。

二重人格（多重人格）

- 解離性同一性障害 ●同一性意識の障害
- 自分が2人かそれ以上の人になってしまう。

解離

精神機能のある部分（記憶など）を切り離す
→精神機能の活動範囲が狭くなる。

知覚障害

知覚

- 感覚に記憶・判断・感情が加味され、意味づけされ、認知される精神機能。
- 外部的客観的空間に定位

表象

- 記憶に基づき、頭の中で対象を作り上げるイメージ。
- 像として不鮮明。意志で左右される。
- 内部的主観的空間に定位

知覚と表象の区別がつかない状態【幻覚】

単純な知覚の異常

感覚器の異常ではない

強さの異常

- 感覚過敏：感覚の強度が強くなる。
- 知覚不全：感覚の強度が弱くなる。

質の異常

心理的要因で、白が緑に見える、など。

持続の異常

時間が長く／短く感じられる。

うつ状態：苦しい時間が永久に続くように感じる。

拡がりの異常

- 大視症／小視症：大きく／小さく見える。
- 遠近障害：遠ざかって／近くに見える。
- 変形視：ゆがんで見える。
- 倒錯視：上下逆転して見える。

不思議の国のアリス症候群

- 身体像の変形：一部や全体が大きく／小さく変形視。
- 浮遊感・時間体験の異常（遅く／早く感じる）
- 現実感喪失・離人体験
- 偏頭痛・てんかん・幻覚薬など。

知覚に伴う熟知感の異常

既視感 ● 以前に体験したことのない場面に熟知感を抱く。体験したことがあると感じる。

未視感 ● 熟知している対象に、初めて知るような疎遠な感覚を抱く。

知覚の疎隔体験 ● 外界の対象を知覚しても、実感がわかない。ピンとこない。

妄覚

- 幻覚：実際にはない対象を、誤って知覚。
- 錯覚：実際に存在する対象を、誤って別なものと知覚。

錯覚

錯視・錯聴・錯味・錯嗅

不注意錯覚 ● 対象への注意集中が不十分で知覚を誤る。ex) 読書中、誤植があっても正しく読みとばす。

情動錯覚 ● 不安・恐怖・期待感などの感情状態に基づき、対象の知覚を誤る。

パレイドリア ● 不定の視覚対象にありありと別の物を知覚する。ex) 暗い夜道で木を人と見誤る。

ex) 天井のしみ・雲→人の顔・動物にみえる。

幻覚

幻聴・幻視・幻味・幻嗅・幻触・体感幻覚

意識障害時：幻視が多い
意識清明時：幻聴が多い

真性幻覚：対象が外部空間に客観的にはっきりと現れ、実在感がある。

偽幻覚：対象が内部空間に主観的にイメージのように現れ、実在性の確信が低い。

機能幻覚

- 知覚刺激に誘発され、平行して同一の感覚領域に幻覚が現れる。
- 聴覚刺激に誘発されたら幻聴
- 視覚刺激に誘発されたら幻視
- ◆ 換気扇の音と同時に人の声が聞こえる。

反射幻覚

- 知覚刺激に誘発され、平行して別の感覚領域に幻覚が現れる。
- ◆ あるメロディーを聞くと形が見える。（聴覚刺激→幻視を誘発）

域外幻覚

- 幻覚が通常感覚領域の外に生じる。
- 域外幻視が多い。
- ◆ 「真後ろに人が立っている」（真後ろ→本来は見えず、感覚領域外）

幻 視

- 域外幻視：通常の感覚可能な領域を越えて、自分の背後や壁の向こう側に見える。
- 自己像幻視：自分の姿が見える。 ●動物幻視：動物を幻視する。
- 考想可視：考えたことが目の前に文字としてみえる。
- 入眠幻覚・出眠幻覚：睡眠と覚醒の移行段階に起こる幻覚。幻視が多い。

リープマン現象
幻視を誘発させる手技
上眼瞼を圧迫→「動物がいますせんか」と暗示→動物幻視

幻 聴

- 要素幻聴：単純な音。耳鳴りなどと区別が困難。
- 複合幻聴
 - 言語性幻聴：人の声が聞こえる。幻声。
 - 音楽性幻聴：メロディーが聞こえる。
- 機能性幻聴：時計や水道の音とともに聴こえる幻聴。

統合失調症の幻聴の特徴

- 言語性幻聴が多い。被害的な内容が多い。
- 話しかけと応答の形の幻聴
- 考想化声（思考化声）：自分の考えが聞こえる。
- 読書反響：読書中、声と一緒に読んでいるという幻聴。
- 自己の行為に口出しをする幻聴

幻味・幻嗅

- 単独で現れることはまれ。味覚障害・嗅覚障害と区別しにくい。

他の幻覚や妄想と一体となって現れる
「食べ物に毒を盛られていて、ひどい味がする」
「ひどい臭いがかがされている」

自己臭妄想
妄想と幻嗅を伴う。
「体から臭いが出て、周りから嫌がられる」

幻 触

- 触覚領域の幻覚。妄想と区別がはっきりしない。

「針を刺されている」「電波をかけられビリビリする」

皮膚寄生虫妄想
妄想と幻触を伴う。「皮膚に虫が這っている」

体感幻覚（セネストパシー）

「腸がねじれている」「脳が溶け出す」
「腕がちぎれて飛んで行く」

体 感
体の状態の感覚。内臓や筋の感覚。
通常は漠然としていて意識されない。

思考障害

思路の障害

思考の進み方の障害

「考えが浮かばない」「決断が鈍くなった」
「頭が空っぽになった」

思考抑制（制止）

- 思考の進行が遅くなり、思考内容が乏しくなる。表象が思い浮かばない。

観念奔逸

- 思考の進行が速く、思考内容も豊富。声が大きく、多弁。話がそれやすい。
- 表象が無選択に結びつけられ、統一性を欠く思考。
- 思考の内容と内容との間には、了解できる関連性はある。
- 音連合：語呂合わせのような観念の結びつき。だじゃれ。

「考えていたことが急になくなった」
「空っぽになった」「考えを抜き取られた」

Ex) 目的「赤いバラをあげよう」

- 色々な表象が活性化
→情熱・ユリ・ポスト……
→「手紙を出さなくては」
- 目的に正しく向かわず、話がそれるが、関連性はある。

思考途絶

- 思考の進行が突然中断。話を突然やめて、黙り込み、再び話し出す。

思考減裂

- 意識清明で思考は支離滅裂。関連ない思考内容が結びつき、話の筋を理論的に追えない。

連合弛緩：比較的軽度の思考減裂。多少の筋道。
言葉のサラダ：高度の思考減裂。単語が羅列。

思路としては、思考減裂と思考散乱は区別困難。
思考内容は、思考減裂の方が不自然、奇妙、場違いで唐突。

思考散乱

- 意識混濁を基盤とし、思考がまとまらない。 ●アメンチアに特徴的。

迂 遠

- 思考の目標を失わず順序だてて話すか、言い換え、反復、注釈が加わり、細部にこだわる。

冗 長

- 細部にこだわらないが、思考の言語的表出の選択が適切でない。要領を得ない。

保 続

- 同じ思考内容が繰り返し現れ、思考が先に進まない。 ●感情的なこだわりはない。

粘 着

- 特定の思考内容に感情的に著しくこだわり、思考が先に進まない。

ある人への怒りにこだわり、考えが先に進まない。

思考体験様式の障害

強迫観念

- 無意味、不合理な思考内容が、意思に逆らって持続。→払おうとすると不安を惹起。
- 不合理性は自覚できている。「ばからしいと」わかっている。
- 思考・意欲・行動・感情の各面で渾然一体として現れる。

<p>疑惑症</p> <p>いちいち何かを疑ってしまう。 「自分の話が正しく伝わっていないのでは」</p>	<p>確認強迫</p> <p>強迫的な確認行為。 ex) ガス栓、戸締まりが何度も気になる。</p>
<p>詮索症</p> <p>何でも詮索的に考えずにいられない。 ex) 字の意味を辞書で引かずにいられない。</p>	<p>強迫的反芻</p> <p>道徳的に好ましくない言葉を何度も繰り返す。 ex) 性的な言葉など。</p>

支配観念

- ある思考内容が何らかの感情状態によって強調され、精神生活のほとんどを占領して持続。
- 本人にとって不合理ではない。

ex) 愛する人を失い、その人に関連することばかりを考える。
興味ある仕事に日夜没頭。
自殺念慮にとらわれ、自殺を促す悲観的思考ばかり巡らせる。

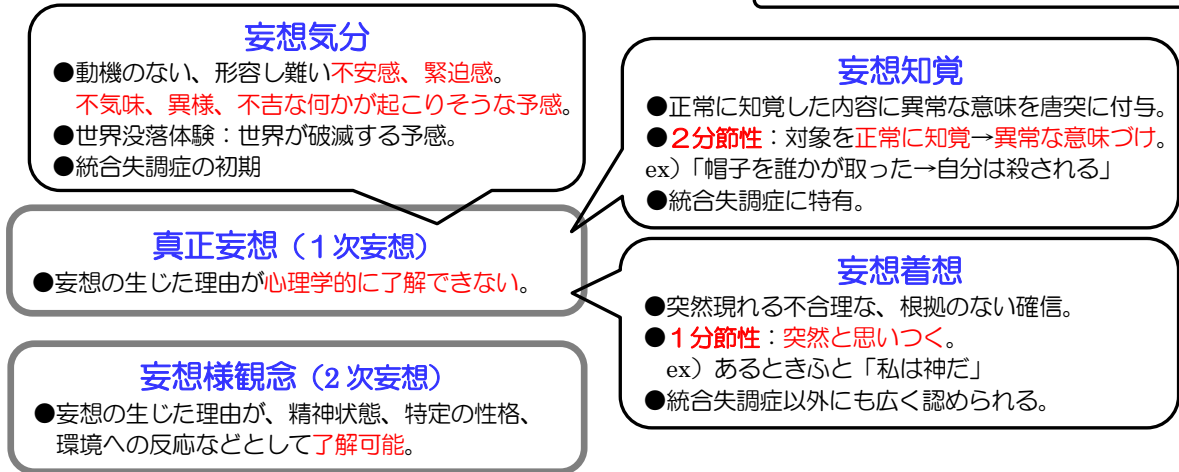
思考の離人体験・自生思考・作為思考 ← 自我意識障害

思考内容の障害～妄想

妄想

- 病的な精神状態から発生する、誤った確信。
(1) 確信の内容は架空で不合理。
(2) 根拠は非常に薄弱だが、確信は異常に強固で訂正不能。
(3) 何らかの病的な精神状態を基盤とし、原則として一人にだけ起こる信念。

迷信・宗教的教義・特殊な思想と区別



原因による分類

- 意識障害に基づく妄想：状況誤認・錯覚・幻覚に基づく妄想。せん妄。
- 特殊な感情状態に基づく妄想：抑うつ状態、躁状態に基づく妄想。
- 適応困難な状況への反応としての妄想：特定の性格と結びついて生じる。
- 知能低下に基づく妄想：認知症など。

家族を知らない人と誤認→「家に誰かが忍び込んでいる」

財布をなくす→「だれかに盗まれた」

敏感関係妄想

「敏感性格」+「困難な状況」
→妄想が惹起

内容による分類

被害妄想 ●自分に害を加えられている。

関係妄想

- 周囲のことや人の表情や態度、行動を、自分と関係つけてしまう。
- 当てつけ、嫌がらせと被害的に意味づけ。

被毒妄想

- 「飲食物に毒が盛られている」
- 幻味、幻臭を伴う。

注察妄想

「周りから見られている、監視されている」

盗害妄想（物とられ妄想）

物を盗まれたという妄想。認知症患者に多い。

追跡妄想

- 自分が狙われている。
- あらゆる手段で迫害されている＝追害妄想

物理的被害妄想

- 電波、テレパシーなどの外力によって害を加えられている。
- 体感幻覚、幻触、作為体験を伴う。

微小妄想 ●自分の健康・能力・財力を過小に評価。

貧困妄想

貧しくなった、という妄想。
「このままでは家族を養っていけない」

罪業妄想

「自分は罪深い人間だ」
「こんな悪いやつは家族に合わせる顔がない」

心気妄想

重い病にかかってしまったと、健康を悪く解釈。

否定妄想（虚無妄想）

臓器や体全体、外界の事象などの存在を否定。
「自分には胃も腸もない」、「世界がなくなった」

コタール症候群

- 否定妄想を中心に、不死念慮、拒否、自殺、自傷。
- 永遠に苦しみを背負ってしまった。自分はもう死ねない。
- 矛盾：不死念慮と自殺。「自分は存在しない」のに「自分は死ねない」。

誇大妄想 ●自分の能力・財力・健康を過大に評価。

発明妄想

大発見をしたという妄想。

恋愛妄想

「誰か身近な人、有名人から愛されている」

血統妄想

血統を誇大に考える。
「有名人や皇室と血がつながっている」

宗教妄想

宗教的使命を持つ。自分が特別な存在と考える。
「自分は予言者である」

嫉妬妄想

性的パートナー、配偶者が浮気をしている。

憑依妄想

動物、悪魔、霊魂などにとりつかれた。

赦免妄想

拘禁されている受刑者が、赦免されると妄想。

好訴妄想

利害が不当に侵害されたと繰り返し訴える。

皮膚寄生虫妄想（腸内寄生虫妄想）

皮膚や腸内に寄生虫がいた。むずむず、かゆい。

自己臭妄想

自分の体から嫌な臭いがし周りの人から嫌われる。

人物誤認

- 【カブグラ症候群】熟知している人物を、別人と思い込む。
- 【フレゴリの錯覚】既知の人物が次々と姿を変えなりしうしている。

妄想追想

過去にはなかった事をあったと追想。
過去の事に間違った意味づけを賦与。

妄想体系

いくつかの妄想を関連づけ、体系的な妄想を作る。

- 「機密組織に狙われている」【被害妄想】
- 「大発見をしたからだ」【誇大妄想】

状態像

状態像
個々の精神症状が組み合わさり、特有の病像を形成。

抑うつ状態

- 気分が沈み憂うつ・意欲低下・後悔・心配・悲観
集中力・判断力・記憶力の低下
- 睡眠障害・食欲低下・性欲低下・頭痛・便秘
- うつ病・神経症性障害
統合失調症・器質性精神障害・中毒性精神障害

躁状態

- 爽快・高揚・尊大・自信過剰・易怒
観念奔逸・誇大的・多弁・多動・過干渉
- 不眠・食欲亢進・性欲亢進
- 双極性感情障害・器質性精神障害・中毒性精神障害

神経衰弱状態

- 易疲労・集中できない・考えがまとまらない・いろいろ
- 頭痛・めまい・動悸・冷汗
- 疲労時・神経症性障害・うつ病
器質性精神障害・中毒性精神障害

不安状態

- 対象のはっきりしない漠然とした恐れ
- 動悸・苦悶感・しびれ・めまい・冷汗・振戦・頭痛
- パニック発作：強い発作性の不安
- 神経症性障害（パニック障害・全般性不安障害）
うつ病・統合失調症

強迫状態

- 強迫観念・強迫行為
- 神経症性障害・うつ病・統合失調症

心気状態

- 実際は病気ではないのに病気であると心配
- 神経症性障害（身体表現性障害）・うつ病・統合失調症

恐怖状態

- 対象のはっきりした恐れ
- 恐れを起こす対象から離れていれば安定
- 神経症性障害・うつ病・統合失調症

離人状態

- 自己・外界・身体に関する疎隔感や非現実感
- 生命実在感の喪失
- 神経症性障害（離人・現実感喪失症候群）
統合失調症・うつ病

解離状態

- 大げさでわざとらしい表情・態度・振る舞い
- 解離症状：健忘・もうろう状態・多重人格・憑依
- 転換症状：失立・失歩・けいれん
- 神経症性障害・パーソナリティ障害・器質性精神障害

幻覚妄想状態

- 幻覚と妄想を主症状
- 統合失調症・器質性精神障害・中毒性精神障害

妄想状態

- 妄想を主症状とする状態
- 妄想体系の構築・心因性（妄想反応）も
- 統合失調症・妄想性障害

緊張病状態

- 緊張病性興奮・緊張病性昏迷が主となる状態
- カタレプシー・反響・拒絶・常同・衝奇
命令自動（命令のままに動く）
- 統合失調症・器質性精神障害

昏迷状態

- 意欲の発動性が見られず刺激に反応しない
- 統合失調症・うつ病・器質性精神障害・解離性障害

意識障害状態

- 意識混濁・意識変容・意識狭窄
- 器質性精神障害・中毒性精神障害

錯乱状態

- 意識混濁を伴い興奮・せん妄・アメンチア・もうろう状態
- 無目的な不穏 ● 注意は固定しない
- 器質性精神障害・てんかん・解離性障害
双極性感情障害・非定型精神病

健忘状態

- 記憶が障害された状態 ● 器質性精神障害、解離性障害

認知症状態

- いったん発達した知能が持続的に低下・人格変化
- 器質性精神障害

残遺状態

- 感情・意欲が鈍化・無関心・寡動・無目的な徘徊
- 児戯性：空虚で子供じみた態度や行動
- 統合失調症・中毒性精神障害・器質性精神障害

病識と病感

病識

- 自分が病気であると自覚していること。
- 「現在の状態が病気のためである」と理解し、病気の性質・程度について正しく認識していること。

病感

- 疾病意識
- 「自分の状態が健康ではなく病气らしい」という漠然とした不安感。

統合失調症における病識

- 病勢が活発な時期は、幻覚・妄想の非現実性や不合理性を認識できない。病識欠如。
 - 治療により病識が生じうる。 ● 完全寛解：症状消失し、確実な病識が生じた状態。
- ※病識が不確実な場合、症状が消失していても、不完全寛解であることが多い。

精神障害と病感

- 統合失調症・双極性感情障害：初期には精神状態の変調に気づいている→病感あり。
- 認知症：初期に「物忘れがひどい」「考えがまとまらない」と訴え→病感あり。

神経症性障害における洞察

- 自ら苦痛を感じて受診→病感あり。
- 自分の性格や環境的要因が発症の背景となっている、という認識を欠くことが多い→病識は不確実。
- 洞察：性格や環境的要因への認識を深める過程。